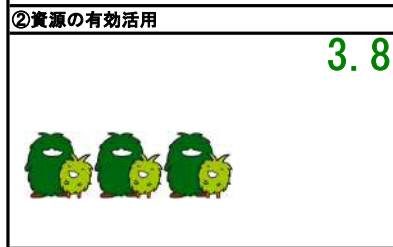
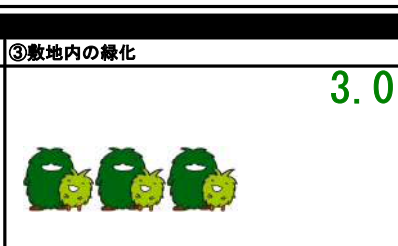
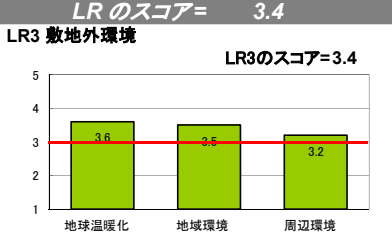
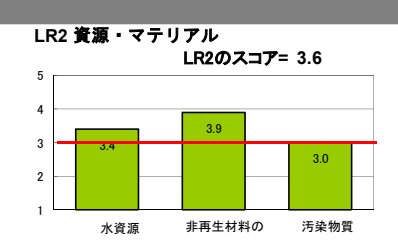
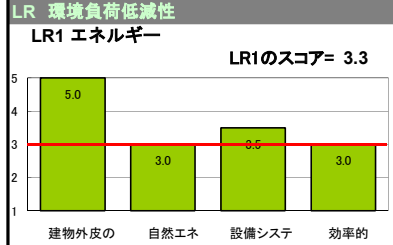
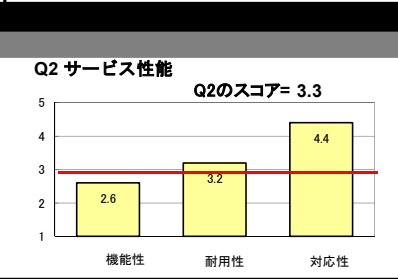
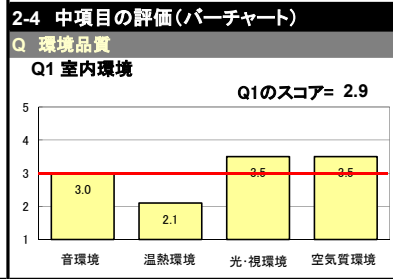
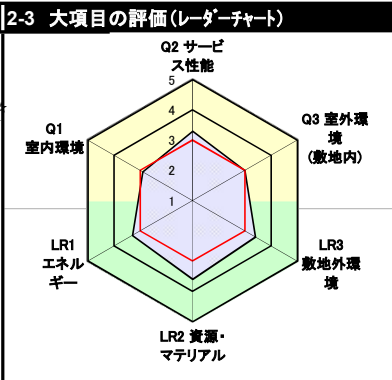
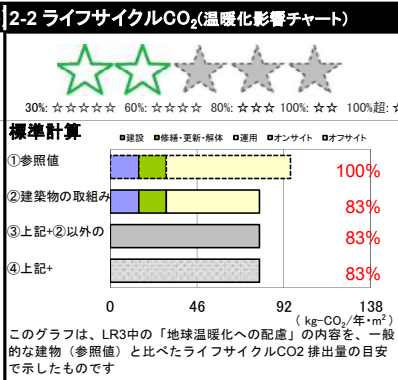
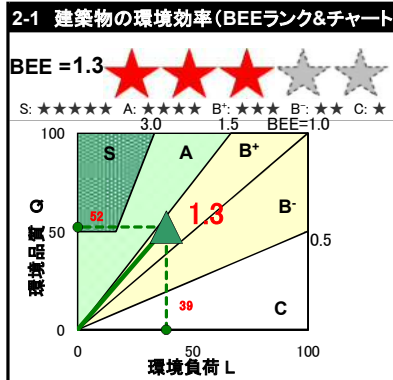


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本ディレーネット株式会社名古屋第二センター	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県稲沢市平和町下起東109番(他19筆)	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法第22条区域	平均居住人員	210 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年3月18日
敷地面積	10,216 m ²	作成者	岩丸 淳
建築面積	4,454 m ²	確認日	2019年3月18日
延床面積	7,846 m ²	確認者	真栄城玄悟



各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質														3.0	
Q1 室内環境														2.9	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														2.1	
2.1 室温制御														3.2	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														4.0	
3 ソーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														1.0	
2.3 空調方式														1.0	
窓SC=0.89窓U=3.30外壁U=1.079屋根U=0.441															
3 光・視環境														3.5	
3.1 昼光利用														4.2	
1 昼光率														5.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														4.0	
3.4 照明制御														3.0	
事務室:750lx															
4 空気質環境														3.5	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
F☆☆☆☆建材を全面的に使用															
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														5.0	
3 取り入れ外気への配慮														1.0	
4.3 運用管理														3.0	
1 CO ₂ の監視														-	
2 喫煙の制御														3.0	
事務室:1/15以上															
Q2 サービス性能														3.3	
1 機能性														2.6	
1.1 機能性・使いやすさ														1.6	
1 広さ・収納性														1.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														1.0	
1.2 心理性・快適性														3.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														4.0	
2 リフレッシュスペース														4.0	
3 内装計画														1.0	
1.3 維持管理														3.5	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														4.0	
建物の維持管理に適切な設備を設置している															
2 耐用性・信頼性														3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.7	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														5.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														5.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														4.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														2.0	
ガルバリウム鋼板30年 事務所)床:タイルカーペット20年、壁:クロス貼20年、天井:ボード類30年 工場)床:塗装20年、壁:金属ハネル40年、天井:金属ハネル40年 高温系(厨房)はステンレス外使用 給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用															
2.4 信頼性														3.2	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														4.0	
光ケーブル・タルケーブル等通信の多様化、精密機器は地上に設置、ネットワーク機器用無停電装置の設置															

3 対応性・更新性				4.4	0.29					-	4.4
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31					-	
1 階高のゆとり			階高:3.9m以上	5.0	0.60					-	
2 空間の形状・自由さ			【壁長さ比率】<0.1	5.0	0.40					-	
3.2 荷重のゆとり			事務室床:2900N/㎡以上、冷蔵庫床:4500N/㎡以上	5.0	0.31					-	
3.3 設備の更新性				3.4	0.38					-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17					-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17					-	
3 電気配線の更新性			PF管配線等により仕上材を痛めず更新・修繕	5.0	0.11					-	
4 通信配線の更新性			PF管配線等により仕上材を痛めず更新・修繕	5.0	0.11					-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22					-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22					-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38					-	3.0
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30					-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40					-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30					-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50					-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50					-	
LR 建築物の環境負荷低減性										-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40					-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.63	5.0	0.05					-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27					-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.75	3.5	0.41					-	3.5
4 効率的運用				3.0	0.27					-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00					-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50					-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50					-	
集合住宅の評価				-	-					-	
4.1 モニタリング				-	-					-	
4.2 運用管理体制				-	-					-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30					-	3.6
1 水資源保護				3.4	0.15					-	3.4
1.1 節水			自動水栓や節水型便器を採用	4.0	0.40					-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60					-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67					-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33					-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.63					-	3.9
2.1 材料使用量の削減			大梁にSM490、機械式接手、スパーエツキを採用	4.0	0.07					-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24					-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20					-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			ビニル系床材・床、吸音材料・天井、断熱材・床下	5.0	0.20					-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05					-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	内装が乾式工法で分別性に配慮、OA707採用	5.0	0.24					-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22					-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32					-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68					-	
1 消火剤				-	-					-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50					-	
3 冷媒				3.0	0.50					-	
LR3 敷地外環境				-	0.30					-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.6	0.33					-	3.6
2 地域環境への配慮				3.5	0.33					-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を採用していない	3.0	0.25					-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50					-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25					-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25					-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25					-	
3 交通負荷抑制		独自	敷地内にバイク置き場、駐車場を配置、管理用車両用スペース考慮、出入口を2か所設置	5.0	0.25					-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25					-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33					-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40					-	
1 騒音		独自		3.0	0.50					-	
2 振動		独自		3.0	0.50					-	
3 悪臭				-	-					-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40					-	
1 風害の抑制				3.0	0.70					-	
2 砂塵の抑制				-	-					-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30					-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20					-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害チェックリストを過半満たす、広告物照明がない	5.0	0.70					-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30					-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

日本デイリーネット株式会社名古屋第二センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.11	外構緑化:18.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 日本デイリーネット株式会社

計画上の配慮事項	
総合	敷地境界廻りには緑地帯を配置した計画。また、隣接する東側のさくら並木沿いの緑道側には遮光フェンスを設置し、周辺の自然環境に配慮している。
Q1 室内環境	昼光率を高めを設定し、光・視環境に配慮している。 また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境にも十分配慮している。
Q2 サービス性能	補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	OAフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。 冷凍・冷蔵庫の空調設備は、フロン類ではない自然冷媒を使用しての省エネ型自然冷媒機器を採用し、フロン・ハロンの回避に配慮している。
LR3 敷地外環境	広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。
その他	-